

令和5年4月14日  
13:00 から 14:00  
ZOOMにて  
定期巡回のクローバー

## 令和5年度第一回 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス

### 介護・医療連携推進会議

出席者：内海（民生委員会長）、高田（民生委員）、三好（老人福祉委員）、西村（醍醐北部包括センター所長）、瓦葺（同和園訪問看護ステーション管理者）、山田（㈱四季代表取締役）  
（欠）、浅田（同和園居宅介護事業所長）、松井（地域・レインボーカフェ運営参加者）、星野（クローバー代表）、立脇（クローバー管理者）、嶋田（クローバー事務長）（書記）

#### （1）クローバー挨拶、構成員紹介（別紙：構成員名簿あり）

代表星野より挨拶

生活援助が中心の訪問介護事業所の40%が赤字運営となっているようである。生産年齢人口の減少も相まって人材不足が加速している。継続したマンパワーを地域で提供して行けるよう加算の取得と共に、必要な身体介護をしっかりと提供し、出来ることを奪わない定期巡回サービスとしての役割をしっかりと果たしていきたい。

#### （2）R4年9月からR5年3月までの事業所の動き、周知活動について

（別紙：2枚あり）

#### ○醍醐事業所について

・ご利用者の推移：R4年9月 ご利用者数 21名

R5年3月 34名(3月24日時点)

従業員数から言えば35名程度の維持が必要であるものの、増減が激しいのが定期巡回の特徴的な所であり、要因としては要介護の高い方や看取りの依頼が多いことが挙げられる。

要介護4.5になってから利用するのではなく早期から導入し毎日訪問する事で利用者との関係構築することが出来、本人の状態の推移も分かる。よって、ご本人やご家族の長期的な

目的や目標を立てる事が出来、在宅生活を長く送る事が出来るのではないかと考えている。

・R5年3月13日以降のコロナの対応について

高齢者など感染リスクが高い方を対応することが多いため、京都市の通達に基づき今後もマスク対応等継続して行う。プライベートの対応など何か指導していることがあるか？

西村氏：プライベートについては対応の強制はしていないが、外出時はマスクをしているのではないと思う。

瓦葺氏：常識的な範疇でみんな対応しているのではないか。一人で歩いている時などは不要だと思うが。

高田氏、三好氏：常にマスクは持ち歩いている。会話をする時や老人宅を訪問する時などはマスクするようにしているが、一人でいる時などは外している。常識的な対応。

・人材育成について

法令研修についてはネット研修。救命救急研修は消防署の研修を受講

外部研修：ZOOMにて職員参加し、月1回のヘルパー会議にて伝達研修を行った。

- ・サービス担当責任者研修
- ・「何かへん」寺岡 Dr
- ・「訪問看護の機能」
- ・「リハビリテーション研修」

ある連携訪問看護ステーションや居宅事業所からは「信頼して連携しており、CMに勧められている」「身体介護はクローバーさん、本当に信頼できる」とお言葉を頂いている。こうした介護技術力やアセスメント能力を維持向上していくためにはどういった研修を行っていくべきか日々模索している。各HHにアンケートを都度実施し次年度の研修年間計画を立てている。

・「語る介」の創設

弊社の事業計画の中でも人材育成は重要な課題となっている。

「語る介」とは…昨年度後半より行っており、人材育成、介護力の向上のため3ヶ月に1回程度対面で行っているブレインストーミングの手法を用いた研修。第1回は「褥瘡について」第2回目は「看取り」について行った。動画も撮り全職員が見られるようになっている。

褥瘡については「どうしたら良いか分からなかった」「あんなに早く進行するとは…」といった率直な意見が出て、今後の対応について考える機会となった。看取りについては、家族や利用者の思いの推移など推察しながら介護者としてどのように向き合っていくべきかなどについてお互いの意見を否定せず耳を傾けながら考えていく事が出来た。

今年はこれに加え対面での介護技術研修を計画作成責任者中心で行っていく。そのための外部研修受講も検討中。

○周知活動について（資料配布有り：別紙2枚）

R4年10月からR5年3月まで最低1回は醍醐地区か山科地区の居宅支援事業所を訪問し、定期巡回サービスの有効な入り方や勉強会の呼びかけをおこなってきた。この間、よりそい居宅介護支援事業所と日ノ岡包括から依頼があり実施した。

### （3）自己評価・外部評価について

前年の「自己評価・外部評価」の報告、今後の対応について(別紙：有り)

赤字がすでに対応実施、緑字が対応検討中。

②実技研修を実施予定

③会議や研修での対応予定

④ヘルパーの意見や利用者の状況に応じて手順書の変更を早急に実施。訪看からの連絡については基本は事務所に連絡頂ければ良いが緊急時には緊急コールの番号に連絡頂きたい

⑥池田東学区の健やか学級への参加が決まっている。コロナによる中止が続いており参加はまだ出来ていない。レインボーカフェの認知症サポーター養成研修のお手伝いをさせて頂き、「定巡について」のお話しもさせて頂く予定となっている。

⑦⑧⑨については外部研修やネット研修、語る介などを用いてアセスメント力向上を行っていく。

⑩⑪⑫契約時以外でも都度説明していく。弊社の活動時間などについては定期巡回の性質上予定の前後一時間程度の余裕は頂いている。予定についてはケアプランに掲載されている。

要介護により回数や時間の取り決めがあるわけではないが、本人の状態やニーズによって決まるものと思われる。しかし何回も何時間でもというわけではなく、滞在型の支援に換算し+随時の対応があるとご理解頂きたい。

⑬⑭定例会議でも早いタイミングで行うようにアナウンスしている。

⑯全ての業務用携帯の位置情報が分かるようにセットしている。事務所の書類については個人情報に係るものは出しっ放しにはしていない。

### （4）医療との連携、地域の課題

連携訪看でアセスメントのみの支援であるのに、家族から相談連絡があり対応のため訪問に行かれたという事案があった。せっかく対応頂いたのに請求が出来ないため、弊社の説明不足であったと感じている。訪問看護にも勉強会の機会を設けたいと考えているが、どうか。

瓦葺氏：同和園に来てから教えてもらった。はじめは分かりにくかった。連携している利用者が多かったので実際に対応しながら分かってきた背景はある。関わっている利用者があまりいない事業所であれば理解がなかなか進まない事は考えられるので勉強会はされた

方が良いと思う。どこの事業所も大変忙しいと思うので ZOOM を利用して、各事業所の都合に対応した日時設定、中身も 30 分程度が良いのではないか。

これまでは定期巡回と連携しても採算がマイナスになるわけではないということを重点的にお伝えしていたが、定期巡回がどういった入り方をしているのかということもご興味ある所であることが今回のアンケートを通じて感じたので、そういったところにも触れた勉強会を企画していきたいと考えている。本日欠席の山田様の事業所（訪問看護ステーションすずらん）とも最近沢山連携して入って頂いており、意見がたくさんあったとお言葉頂戴しているので、記録として皆様に共有できればと考えている。

地域の課題として、最近はコロナが落ち着いてきたような状態であるが、日常が戻ってきつつある中での課題はなにか？この三年で人とのつながりが希薄なってしまったが故に要介護1でも外に出られずずっとテレビを見ているなどの利用者がおられる。

西村氏：コロナがなくてもその前からあった課題だったと感じている。昔からの隣近所との深い関係性が再び戻るかというところという訳ではないと思うので、コロナが収束して自然と解決していくものではなく、引き続き考えていかなければならない課題であると考えている。悪質訪問販売の被害なども多々ある。

浅田氏：コロナ禍によって ZOOM が浸透している事など高齢者も新しい機能を覚えられたり良い影響もあったと思う。どう付き合っていくのか工夫を重ねながら元と全く同じとはいかなくても少しずつ回復させて行ければと考える。

高田氏：引き込もりになりがちになるのは性格によるのかな、と様々な方を見ていると感じる。気負わずになにげなく声をかけあうということが出来るのが一番良いなど感じる。昔からのお付き合いなら出来ても、新しく入って来られた方との交流がなかなか進まなかったりしている。

三好氏：花の世話などで外に出ている方が多く外に出ていると会話が始まったり、お互いの家に行き来されていたり結構交流されている方が多い様に、私に関わる地域では思う。

内海氏：コロナ禍の三年で家の中に閉じこもっている方が増えたのは事実だと思う。地域の活動が出来なかった事は要因であることは間違いない。介護度が上がれば動くこともおっくうになるのは間違いないし、どうやって外に出てきてもらえるように、弱らはることがないようにするかが大事だと思う。社会福祉協議会など地域の活動が徐々に戻ってきている。地藏盆や子供神輿などが始まれば、ちょっと玄関まで見に出て来てくれることもあるだろうからコロナ禍からの脱却が期待される。

➡地域の行事のお手伝いにも参加しているので何かあればお声掛け頂ければ対応したい。

R5 年度第 2 回 介護・医療連携推進会議 ：令和 5 年 10 月に予定しております。

ます。ご協力をお願いいたします。

以上